

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習 I		
担当者(Instructors)	丹下 悠史	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
<p>教師が実践を改善し力量を高めるための一連の営みである「授業研究」について、基礎的な知識を獲得することを目的とする。加えて、身に付けた知識を、模擬授業等の教職課程の学習活動に活用できるようになることを目指す。「教師への一歩」と題して、教員採用試験を想定し、教師に必要とされる基礎的な事項を習得するための課題に取り組む。</p>			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で授業を実施する。授業内容に応じて、ディスカッション及びグループワークを取り入れる。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	授業の進め方を確認し、前半のテキスト輪読の形式を理解する。	<input type="checkbox"/>
第2回	授業研究とは何か (1) 授業研究を創るために	授業研究と授業の関係を理解する。	<input type="checkbox"/>
第3回	授業研究とは何か (2) 授業研究の主体は誰か	授業研究における教師の主体性の問題を検討する。	<input type="checkbox"/>
第4回	授業研究とは何か (3) 教師は授業研究をどう経験するのか	授業研究を通じた教師の成長可能性を検討する。	<input type="checkbox"/>
第5回	授業研究とは何か (4) 実践経験者から生み出される授業記録と意味解釈	授業研究において教師が記録にもとづき語るこの意味を探究する。	<input type="checkbox"/>
第6回	授業研究とは何か (5) 教師と研究者の対話に基づく校内研修の充実	校内研修における授業研究の位置づけや研究者の関与のあり方を検討する。	<input type="checkbox"/>
第7回	授業研究とは何か (6) 子どもの思考と人間形成に視座をおく	授業研究の一形態としての授業分析の方法とその理念を理解する。	<input type="checkbox"/>
第8回	授業研究とは何か (7-9) 授業研究に期待する	熟達した教師の授業観を考察する。	<input type="checkbox"/>
第9回	授業研究とは何か (10) 日本の授業研究の独自性とこれから	世界と比較した日本の授業研究の特質を理解する。	<input type="checkbox"/>
第10回	研究課題の設定	教科等の教育活動もしくは指導法の中から自身の研究テーマを設定する。	<input type="checkbox"/>
第11回	レポート作成の方法	教育研究レポートの執筆の仕方を理解し、構成を作成する。	<input type="checkbox"/>
第12回	資料の収集	資料収集の方法を知り、研究テーマに則した資料を収集する。	<input type="checkbox"/>
第13回	資料の分析	収集された資料を整理し自身の問題関心に位置づける。	<input type="checkbox"/>
第14回	レポートの執筆	各自の関心にもとづいた研究レポートを作成する。	<input type="checkbox"/>
第15回	研究発表会	完成した研究レポートを発表し相互評価する。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)			
<p>テキスト購読は輪読制で行う。担当者が要約資料を用意するだけでなく、参加者は事前に担当教員が配布するワークシートにしたがい各章の内容に関する問題への解答を準備してくる (2時間程度)。授業後は議論の内容の記録を各自で作成する (2時間程度)。個人研究は、授業時間外に資料収集や個別指導を受けることといった自主的な学習活動を課す (週4時間程度)。</p>			

■ 課題とフィードバックの方法 (Assignments/feedback)			
---	--	--	--

演習形式により授業を進める中で、発表資料等の学生の成果物および発言にはその都度フィードバックを行う。課題の研究レポートには個別に事後指導を行う。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	授業研究の代表的な方法や活用の意義を説明できる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	授業研究の特質や課題を具体的な事例をもとに考察し、適切な表現の仕方でも意義や課題を指摘することができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	自身の探究の成果を他者に共有し、受けたフィードバックを開かれた態度で取り入れることができる。

■成績評価 (Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

ゼミ活動への参加・貢献 (20%)、テキスト輪読における担当者としての報告 (40%)

■テキスト (Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	鹿毛雅治・藤本和久編著『授業研究を創る』教育出版	
2		
3		
4		
5		